岐阜 City DNA

咲楽ごこち伝道師 vol.69

ショウガ、サンショウ、ヤマイモ…。食材として利用されるこれらは全て生薬（薬草）です。私たちの身近な存在にある薬草ですが、意外と知らないこともたくさんあります。椿洞にある岐阜薬科大学薬草園では広さ9202平方メートル、約700種類の薬草が栽培されており、見学が可能。薬草の研究者として、また、広く生薬の知識を広める役目もされている薬草園園長の酒井英二先生が薬草への興味をかきたててくれます。

>>酒井 英二さん

1963年福井県永平寺町生まれ。1986年岐阜薬科大学　薬学部　製造薬学科卒業。1990年岐阜薬科大学大学院博士課程学位取得（薬学博士）。厚生省国立衛生試験所筑波薬用植物栽培試験場研究員、和歌山薬用植物栽培試験場の研究官を経て、2001年岐阜薬科大学薬草園研究室助手に。2014年に教授、薬草園園長となる。薬剤師、臨床検査技師の免許を持ち、薬草、生薬に関する著書も多数。独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員（日本薬局方調査会）、日本薬局方外生薬規格検討委員（厚生労働省）も務める。

地道にコツコツと広く、薬草・生薬の知識を広めます。

岐阜薬科大学 教授 薬草園園長 酒井 英二さん
Sakai EIJI

「ガイドボランティアさんによって説明が異なるので、何度も足を運ぶと、その度に違う発見があるかも。」

今年も岐阜薬科大学の薬草園の一般公開のシーズンが始まります。全国の薬学系大学には研究目的の附属施設として薬草園（薬用植物園）が設置されていますが、同大学では昭和60年、全国に先駆けて一般公開をはじめました。園内は、薬草が大好きなガイドボランティア（薬草を学ぶ会）が見学のお手伝いをしてくれます。シーズンのはじめに研修会を行っていますが、案内の方法はガイドさんにお任せしているとのこと。個性豊かなガイドさんと共に薬草園を見学すると、薬草への興味を広げることができます。

岐阜薬科大学薬草園の園長を務めるのは同大学の薬草園研究室の教授、酒井英二先生。専門は薬用植物の栽培と加工調製、生薬及び粉末生薬の鑑定です。

酒井先生は福井県出身。自宅近くの山林に薬草が多くあり、子どもの頃は祖母と一緒に親しんでいたとのこと。高校生の時、現在の義兄を通して漢方薬の研究について知ったことから同大学へ進学。クラブ活動で東洋医学研究部に入り、生薬の研究を始めました。この時の指導者が前薬草園園長の田中俊弘先生でした。

田中先生は薬草・生薬の生産を長年にわたって研究された、薬草園研究室の教授でした。土日は田中先生と調査のために山へ入り、どっぷりと生薬の研究に浸かったとのこと。「田中先生のお子さんより、長い時間を一緒に過ごさせてもらったかも」と酒井先生は笑います。

製造薬学科の卒業でありながら、最初の就職先は厚生省の薬用植物栽培試験場だったとのこと。薬剤師の資格を持たれていますが、白衣ではなく、作業着を着て畑に出ることが多かったとか。土や植物に向き合う日常は、教授になった今も変わらないそうです。

「一般の方にも薬草、生薬の正しい知識を知ってもらいたい。作用が強く毒性を示す薬草があることや、漢方薬と民間薬は違うことなど、少し知っているだけで、薬草の世界をもっと楽しんでもらえると思います。」酒井先生は各地の薬草教室で講師を務めることもあり、一般の方の薬草への関心の高さを実感。薬草を求めて山を歩くことが健康につながるため、ぜひ、興味を持ってもらいたいとのこと。

ただし、正しい知識を持っていないと、健康被害を受けたり、植物を絶滅させてしまったりすることも考えられます。そこで、酒井先生は全国の薬草研究者と共に、薬草・生薬の形態や薬用部位などを記載した一般向けのガイドブックを作成し、日常生活の中で役に立ってくれたら、と考えています。

また、酒井先生は健康食品などに含まれている薬用植物の種類を見極めるため光学顕微鏡を使った鑑定も行っています。机に向かっている時は、地道な作業をコツコツと繰り返します。過去の情報も取り入れて、それが正しいか検証する研究もされています。時代に合わせ、常に新しく、正しい情報を伝えていくためには、地道な作業が必要なのです。

「次は後に続く、薬草・生薬の研究者を育てていかなければ。研究者が少ないと、今後、議論することができなくなってしまいます。公平な目で意見を言える人をもっと増やしていかないと。薬草園研究に熱心になってくれる学生が増えて欲しいと考えています。」

そして、酒井先生は薬局・薬店に立つ薬剤師にもぜひ、薬草・生薬についての知識を持って欲しいと望んでいます。漢方薬や健康食品、サプリメントを飲む人が増えているので、適切な飲用方法を伝えることができる薬剤師が増えてくれればと期待しています。

一般の方の関心のためにも、人材育成のためにも、さらに分かり易い薬草ガイド本を作成するなどして、薬草の知識を広げていきたいと、酒井先生。そして、田中先生から教えられた研究ノウハウを引き継いでくれる、研究者の育成にも力が入れられていきます。

岐阜薬科大学 薬草園
・場所／岐阜市椿洞字東辻ヶ内935
・開園期間／4月～10月
・開園日／期間中の月、水、金、日曜
（8月および祝日、振替休日は休園）
・開園時間／10時～16時
今年は4月8日（水）から一般公開が始まります。
・問い合わせ
岐阜薬科大学三田洞キャンパス
岐阜市三田洞東5-6-1
TEL.058-237-3931